

# 港湾振興便り



2017. 10

第125号

\*:

## 目次

\*:

### 1 ポートエッセイ

—志布志市で第51回通常総会

歓待と新しい発見に感謝—

～日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 篠田 昭～

### 2 トピック

●北極海航路の一般貨物船が苫小牧港で初荷揚げ！

(苫小牧港管理組合 総務部 港湾振興室 港湾振興課)

●～石巻港開港50周年記念イベント～第16回 港湾感謝祭を開催

(石巻市 建設部河川港湾室)

●「酒田ビッグビーチフェスタ2017」大浜海岸で開催

(酒田市 商工観光部商工港湾課)

●「飛鳥Ⅱ」酒田港に寄港

(酒田市 商工観光部商工港湾課)

●四国における瀬戸内海クルーズ振興に向けた提言について

(四国地方整備局 港湾空港部)

●志布志港みなと見学会を開催しました

(九州地方整備局 志布志港湾事務所)

●「平良港国際クルーズシンポジウム、拠点整備事業起工式の開催について

(沖縄総合事務局 平良港湾事務所)

### 3 お知らせ

◇ ザ・シンポジウムみなと in 留萌

\*:

## 1 ポートエッセイ

—志布志市で第51回通常総会

歓待と新しい発見に感謝—

～日本港湾振興団体連合会会長（新潟市長） 篠田 昭～

\*:

本振興団体連合会の第51回通常総会を今月4日、鹿児島県志布志市で開催いただいた。鹿児島県と志布志市の手厚いご配慮で、大変に有意義かつ盛り上がった総会にさせていただいた。開催・運営の中心となった本田修一志布志市長らに深く感謝したい。「遠路はるばる…」と本田市長は何回も語られたが、総会参加者のすべてから「遠くまで来た甲斐があった」と感じていただいた総会ではなかっただろうか。ありがとうございました。

今回の総会会場はロケーションも素晴らしく、私も志布志湾に沈む夕日を堪能させてもらった。総会後の講演も大変に興味深かった。総会に参加されなかった方のためにエッセンスを簡単に紹介したい。

（原木の輸出に大隅から先鞭）

最初に講演されたNPO法人活木活木（いきいき）森ネットワークの遠藤日雄理事長は「大隅地域の森林・林業の発展と志布志港」とのテーマで発表された。遠藤理事長が冒頭、「大隅地域とタイトルをつけたが、これを九州地域、いや日本全体と考えていただいて結構だと本当は思っている」と語られた通り、今後の日本の森林・林業のことに思いを馳せることができる内容だった。

新潟港と歩んできた私にとって「原木・丸太」と聞くと、すぐにソ連・ロシアからの輸入材を思い起こす。港湾によって輸入先は異なるだろうが、原木は輸入するものと思われている方がまだ多いのではないか。

しかし、大隅地域では原木は輸出するものと捉え、既に活用が始まっていた。輸出先は中国が中心という。上海の太倉港の丸太置き場には日本産のスギ材が山積みされ、パレット材や梱包用材、マンションの内装材として活用されているようだ。

九州では木材輸出戦略協議会が組織され、商社を介して中国から韓国へと市場を広げている。今後はツーバイフォー・デッキ材やフェンス材から住宅本体材として、東南アジアから米国までへの輸出発展戦略が練られている、とのお話だった。

（志布志港から世界へ）

その後、弓場貿易株式会社の弓場秋信社長が「志布志港から世界へ—農林水産物・加工食品の輸出」と題して講演された。こちらも豊富なデータを駆使した興味深い内容だった。牛肉などを中国への輸出が禁止されているが、カンボジアへの牛肉輸出が増加している背景には中国向けの加工・迂回輸出があるようだ。

日本からの農林水産物輸出実績も示された。近年、原木の輸出が伸び、菓子類やブリ、牛肉などと並びトップ5入りをしている。鹿児島県の輸出実績では、ブリ、牛肉に次いで、原木が3番目にランクされており、遠藤理事長の講演を裏打ちしていた。

原木の輸出は全国の港湾にとっても取り組むべき大きなテーマであることが、私も遅まきながら理解できた。港湾振興団体として、さらにさまざまな情報を把握・共有し、それぞれの港湾の振興に努めていきたい。



ースでは紙製品が「港湾感謝祭特別割引価格」で販売されたとあって、こちらも多くの方々が集まり、両手に持ちきれないほど購入されるなど大いに賑わいました。

来年以降も「港と市民をつなぐ場」として、市民の皆様が楽しみながら参加できるよう港のPRをしていきたいと思ひます。



巡視船「くりこま」には長蛇の列



石巻港に関する〇×クイズで学習



締めは「餅まき」

### ●「酒田ビッグビーチフェスタ2017」大浜海岸で開催

(酒田市 商工観光部商工港湾課)

9月3日(日)、酒田市大浜海岸を会場に大浜海岸ビーチイベント「酒田ビッグビーチフェスタ2017」が開催されました。

今回の取り組みは、公益財団法人日本財団が実施する「海と日本プロジェクト2017サポートプログラム」助成事業である「『西の堺 東の酒田』湊町復活(リバイバル)事業」のイベントの1つとして、国、山形県、酒田市、関係団体で組織する「『海の日』記念事業実行委員会」が企画し開催されました。

当日はビーチバレーボール大会の他、はだしになって汗をかき家族愛を深めることを目的とした家族対抗はだし運動会、シーカヤックの乗船体験などが行われ、家族や友人とビーチ遊びを満喫しました。また酒田港風力発電事業者協議会主催で、風力発電所見学会やペットボトル風車工作体験が行われ、参加者は風車の仕組みを学びました。

今年度で2回目の開催となりましたが、新たな取り組みも多く行われ、参加した方々が思い思いの「海」の楽しみ方を学ぶ一日となりました。



ビーチ雪合戦



ビーチバレーボール大会



ビーチフラッグス



ビーチフェスタ終了後の記念写真

●「飛鳥Ⅱ」酒田港に寄港

(酒田市 商工観光部商工港湾課)

9月8日(金)、酒田港北港地区古湊ふ頭に「飛鳥Ⅱ」が寄港しました。

着岸後に行なわれた歓迎式典では、丸山至酒田市長より乗船の皆様へ歓迎挨拶が行われました。その後、白崎好行酒田商工会議所専務理事より酒田のシンボルである「酒田凧」の記念品、後藤仁(ひとみ)酒田市議会議長より乗客の皆様へ酒田でつくられたブランド米「つや姫」が贈呈されました。

式典の後、乗客の皆様は山形県を縦断する最上川での舟下りや、酒田舞娘(まいこ)の演舞鑑賞、「西の伊勢参り、東の奥参り」と言われた羽黒山への参詣に出かけられ、山形の観光を楽しまれました。また今回は酒田市のマスコットキャラクター「あののん」が船内に入り、乗船客の皆様と記念撮影を行いました。

出港時には、「やまがた 愛の武将隊」の演武とともに、羽黒山の山伏による法螺貝の吹奏、バルーンリリースにより乗客の皆様を見送り、「飛鳥Ⅱ」は次の寄港地となる函館港へ出港されました。

クルーズ終了後には酒田港への感謝も寄せられたことから、今後も更にきめ細やかな受け入れ態勢を構築して参りたいと思います。



歓迎式典参加者の集合写真



船内での記念撮影



バルーンリリースによるお見送り

●四国における瀬戸内海クルーズ振興に向けた提言について

(四国地方整備局 港湾空港部)

平成29年9月26日、第2回瀬戸内海クルーズ振興検討会を開催しました。

本検討会では、高松港、坂出港及び松山港へのクルーズ船誘致を目的に、瀬戸内海の魅力を活かしたクルーズツアーの検討、地元の受入体制の充実とクルーズ船旅行客への地域の観光情報の提供など、ハード・ソフト両面に係る提言書を取りまとめました。

これまで四国地方整備局では、瀬戸内海のクルーズ振興を図るため、平成29年5月22日に「四国における瀬戸内海クルーズ振興検討会」を設置。下部機関となる高松・坂出WG及び松山WGにおいて、クルーズ船社の責任者を招聘し、クルーズ船誘致に向けた課題と対応策について検討してきました。

いずれの港においても、これまで誘致活動等が行われてきたところではありますが、今回の提言を踏まえ、更に効果的な振興を図っていくことが望まれます。

また、瀬戸内海の他の港湾においても、本検討会での提言や検討内容を参考に、活発な取り組みがなされるとともに、各港湾が更なる連携を図り、瀬戸内海におけるクルーズの一層の魅力向上とクルーズ船の寄港増大が期待されます。



同検討会の取組は以下URLをご参照ください

<http://www.pa.skr.mlit.go.jp/general/policy/cruise.html>

●志布志港みなと見学会を開催しました

～次代を担う小学生が“みなと”を体験学習しました～

(九州地方整備局 志布志港湾事務所)

九州地方整備局志布志港湾事務所及び株式会社共栄開発は9月26日に、志布志市立原田小学校(5・6年生の計24人)を対象とした「みなと見学会」を開催しました。まず港湾の重要性を学習した後、志布志港全域を見学し、その後、ブロック製作工事(コンクリート打設や転置(型枠脱型等のためにコンクリート構造物を移動させる作業))の見学や、高所作業車の乗車などを体験しました。

児童の皆さんからは「志布志港にはこれまで何個の消波ブロックが設置されたのか(答えは、約2万個)」、「消波ブロックはどの程度の期間機能が保たれるのか」といった説明者がたじろぐような質問が相次ぎ、今回の見学会が「将来の職業の舞台としての「港」」として関心と呼ぶ機会になったものと期待されます。

今回の見学会では、国と工事受注者の連携により「港の重要性」と「港湾工事のダイナミックさ」を同時に伝える取り組みを行い、次代を担う子供たちに地元の経済を支える志布志港の理解を深める機会となりました。

今後も社会インフラのストック効果や港湾の役割・重要性を、小学生からシニア世代までの幅広い市民に直接訴え、「みなと」への理解や親しみを得る活動を積極的に行って参ります。



座学(港湾の役割)の様



消波ブロック(重量80トン)の  
転置作業の見学



高所作業車の乗車体験



高さ5mの消波ブロックの前で記念撮影

●平良港国際クルーズシンポジウム、拠点整備事業起工式の開催について

(沖縄総合事務局 平良港湾事務所)

平成29年9月30(土)宮古島の平良港にて、「平良港国際クルーズシンポジウム」(主催:宮古島市)、「平良港国際クルーズ拠点整備事業起工式」(主催:内閣府沖縄総合事務局)が開催されました。

シンポジウムでは、約500人(主催者発表)の市民が、カーニバル・アジア社のポール・チョン副社長の基調講演や、パネルディスカッションでの議論に熱心に耳を傾けていました。

起工式では、島尻内閣府大臣補佐官をはじめとする官民の代表がくわ入れを行い、出席者は大きな拍手を送って整備事業の起工を祝いました。



写真:シンポジウム参加の記念撮影



ポール・チョン氏の基調講演の様子



写真:起工式「くわ入れ」の様子



起工式参加による記念撮影

